

# 子どもの描く食事風景に関する一考察

丸山浩徳<sup>1</sup> 西村友希<sup>1</sup> 吉川洋子<sup>2</sup> 岩瀬賢治<sup>3</sup> 加藤恵一<sup>3</sup> 西村敬子\*

\*家政教育講座

<sup>1</sup>愛知教育大学大学院生

<sup>2</sup>知立市立知立南小学校

<sup>3</sup>知立市立知立西小学校

## A Study on the Pictures of Dinner Scene by Children

Hironori MARUYAMA<sup>1</sup>, Yuki NISHIMURA<sup>1</sup>, Youko YOSHIKAWA<sup>2</sup>, Kenji IWASE<sup>3</sup>,  
Keiichi KATOU<sup>3</sup> and Takako NISHIMURA\*

Department of Home Economics Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

<sup>P</sup> Graduate Student, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

<sup>Q</sup> Chiryuu Minami Primary School in Chiryuu-City

<sup>R</sup> Chiryuu Nishi Primary School in Chiryuu-City

### I. はじめに

近年, 子どもたちの食生活に多くの問題のあることが指摘され, その解決方法が模索されてきた。その中で平成17年に食育基本法が制定され, 地域・学校で食育が推進されている。知立西小学校では平成18・19年度知立市教育委員会の研究委嘱を受け, 子どもたちに食育を行うことで「心身ともに健康で, 自他を大切に育てる子の育成」を目指し, 全校をあげて研究を行ってきた。子どもたちは「食まるファイブ」という食事バランスガイドに因んだ食育キャラクターとともにバランスのよい食生活について学んできた。その結果, 給食の残食が大幅に減少するなど大きな成果を挙げている。<sup>1) 2)</sup>

本研究ではさらに子どもたちの食についての内的世界に迫りたいと考えた。そして「誰と」「どのように」夕食を食べたのかについて子どもたちに食卓風景を描写してもらい分析を試みた。

### II. 研究方法

本研究の調査方法, 調査期間, 調査対象, 調査内容は以下に示す通りである。

- 1、調査方法：本調査は質問紙法および調査日前日の夕食風景の描画法により行なった。
- 2、調査期間：平成19年12月中旬である
- 3、調査対象：愛知県知立市知立西小学校の1～6年生734名である。調査対象者の内訳は

表1 調査対象者

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1組	12	16	21	18	15	15	16	17	16	20	18	12
2組	12	14	20	17	15	14	17	22	16	20	17	14
3組	12	15	22	16	13	16	18	20	15	20	16	11
4組	13	13	/		16	15	14	22	/		16	12
5組	11	14	/		/		/		/		/	
計	132		114		119		146		107		116	

(人)

表1に示した。

### 4、調査内容

質問紙により1日の食事回数, 朝食・夕食の摂取状況(一緒に食べた人, 食べたもの, 楽しかったかどうか, その理由等)を調査した。さらに調査前日の夕食風景を描画してもらった。

本研究では調査の中の夕食について分析を行った。

### 5、夕食風景描画の分析方法

子どもたちの描いた夕食の情景の分析は, 動的家族描画法(Kinetic Family Drawing 以下KFD法とする)の分析方法<sup>3) 4)</sup>を用いて行った。

## III. 結果及び考察

### 1、夕食摂取状況

①昨日の夕食を誰と食べたかについて

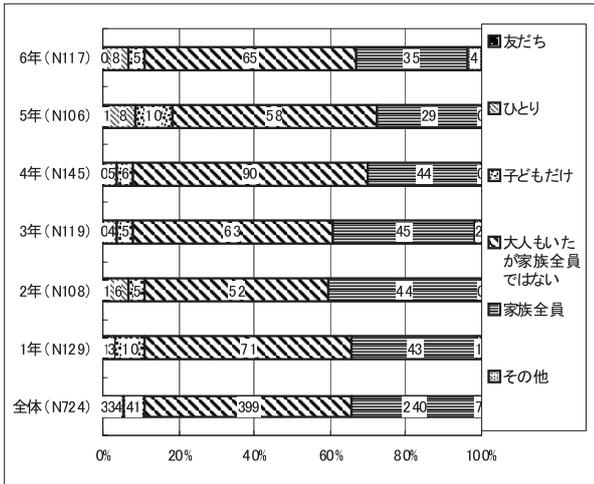


図1 夕食を誰と食べたか

「あなたは昨日の夜誰と一緒に食事をしましたか」という質問の結果、図1が得られた。

図1に示すように、大人もいたが家族全員ではないと回答した児童が55%、家族全員33%、子どもだけ6%、ひとり5%であった。

学年別に見ると、学年があがるにつれてひとりで食べたと回答した児童が多くなり、家族全員で食べたと回答した児童は少なくなっている。これには、子どもの塾通いなど生活状況が影響しているのではないかと考えられるが、さらなる分析が必要である。

### ②夕食を家族が同じものを食べたか

「夕ご飯は家族みんなが同じものを食べましたか」という質問の結果、図2が得られた。

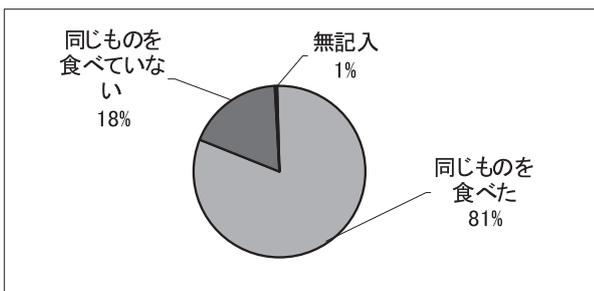


図2 家族みんなが同じものをたべましたか

図2に示すように、夕食を家族全員が同じものを食べたと回答した児童が81%、同じものを食べていない18%であった。同じものを食べていない理由として「自分にあわせたメニューが用意されている」が24%、「家族がバラバラに食べる」22%、「好みがあわない」22%であった。

自分にあわせたメニューが用意されていたり、好みがあわないという意見は児童の好き嫌いが反映しており、家庭では嫌いなものは、食卓にあがらなかったり、食べなくても許される状況があるのではないかと考え

られる<sup>5)</sup>。

### ③夕食は楽しかったかについて

「夕食は楽しかったですか」という質問の結果、図3が得られた。

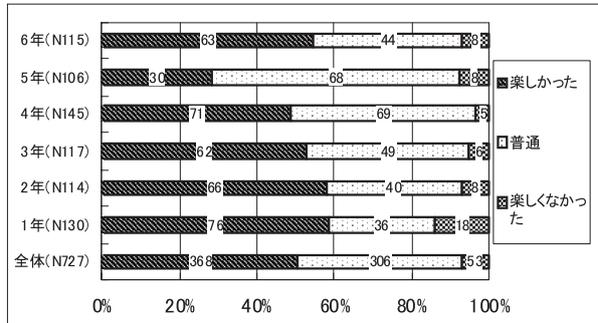


図3 夕食は楽しかったですか

図3に示すように、夕食が楽しかったと回答した児童が49%、普通44%、楽しなかった7%であった。

楽しくなかったと回答した児童の理由として多くあげられたものは「一人だった・会話がな」等コミュニケーションについて書かれたものが37%、「好きな食べ物がない」等夕食のメニューについて書かれたものが33%であった。

学年別に見ると1年生に楽しくなかったと答えた児童が多く見られ、その理由として「好きなメニューがない」という回答が多かった。家族と夕食を食べていてコミュニケーションがとれていても、楽しさには食べるメニューが大きく影響していると考えられる。

### ④夕食の楽しさと誰と食べたかについて

夕食の楽しさと誰と食べたかの関係を図4に示した。

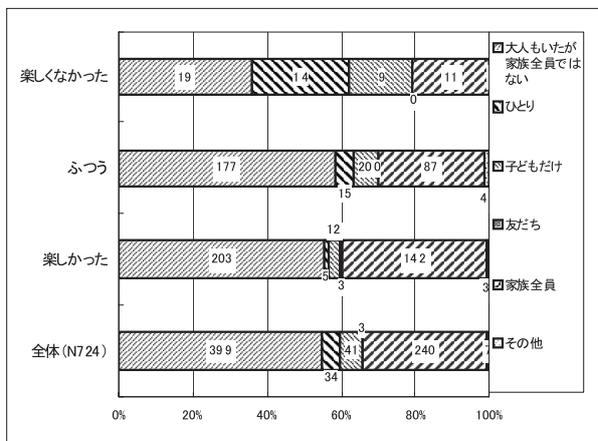


図4 夕食の楽しさと誰が食べたかについて

夕食が「楽しかった」と答えた児童は、家族全員で食べている児童が多く、大人がいても家族全員ではな

いと「ふつう」と回答する児童が多かった。このことから、家族全員で食べることが児童の心に与える影響が大きいと考えられる。

## 2、KFD法の分類について

### (1) KFD法による分類

「きのうの夜ごはんは、どんな食事でしたか。」という質問で描いてもらった絵を室田洋子6の分類法に従って分類し、典型的な図を示した。

#### ①人間関係貧困型（人がマークや文字による表現）

図5には食卓にならんだ食事はしっかり描かれており、とてもおいしそうだが、人物が文章で描かれている。家族全員で食べた夕食は「楽しくなかった」と回答している。その理由として、「食べる前にお母さんにおこられたから。」としている。これらのことからこの食卓ではあまり会話がなく、そのために人物がきちんと描かれていないのではないかと推測する。

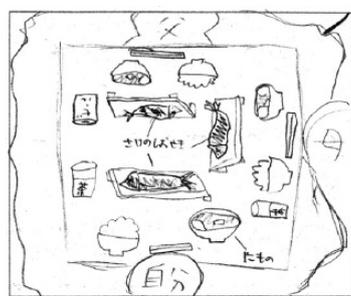


図5 5年A子

これは人物以外は丁寧に上手に描かれているため、表現の技術が未熟ではないにもかかわらず、人物がマークや文字、もしくは無表情で描かれている絵である。「食事の相手と一緒にいた実感がない、コミュニケーションの実感感がない、家族はいても実在に存在している感じがいない」<sup>6)</sup> 状態を示している。

#### ②意欲希薄型（手が描かれていない表現）

図6に描かれている人物の表情を見ると楽しそうであるが、描かれた人物の腕・手がない。本児童は夕食を「楽しくなかった」としており、その理由として「好きな食べものがなかったから」としている。また、食事があまり細かく描かれていない。このことから、

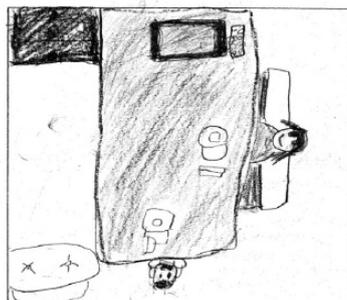


図6 3年B男

あまり食べる気がしない様子を手を描かないことで表現していると考えられる。

これは食卓に並ぶ食べ物や、人物の表情、食卓の周りのものはしっかり書かれているのに、人物に手や腕が描かれていない絵である。「手が描かれていないということは、『手が出ない』『食べる気が起きない』『食欲が起きない』、そして『意欲も起きない』という状態」<sup>7)</sup> を示している。

#### ③強制感型（人物が描かれていない表現）

図7はテーブルに一人分の食事だけがしっかりと描かれており、人物が描かれていない。また、この食卓は家族全員ではないが大人も一緒に食事をしている回答しているのに、一人分の食事しか描かれていない。夕食は「楽しかった」と回答している。このことから、この児童にとって誰かと食事を共にすることよりも食べ物に関心があり、食事の楽しさには何を食べているかが大きな影響を及ぼしていると考えられる。

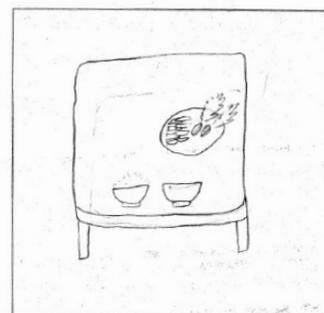


図7 3年C男

これは食卓に食事だけが並べて描かれている、あるいは一人分の食事のみが描かれているなど、それを食べる人物が描かれていない絵である。「毎食毎食、『食べなければならない』『食事が押してくる』という強制感を示すタイプと、食べたいものをどこでも、いくらでも食べたいという『食べ物にのみに意識』が向いている状態」<sup>8)</sup> の二通りのタイプを示している。

#### ④辺縁位型（端っこで一人で食べる表現）

図8には大きくテーブルが描かれているが、描かれている人物は端っこに描かれている。また、家族全員ではないが大人と一緒に食事をしているにもかかわらず、一人しか描かれていない。夕食の楽しさは「ふつう」と回答していることから、普段からこの児童は誰かと食事をしても自分ひとりの空間で食事をし、食事中のコミュニケーションが取れていないのではないかと推測する。

これは食卓の端っこに一人で食事をしている、構図そのものを小さく描いている絵である。「どこか(端っこ)に身を寄せていないと心細い、落ち着けないという状態」<sup>9)</sup> を示している。

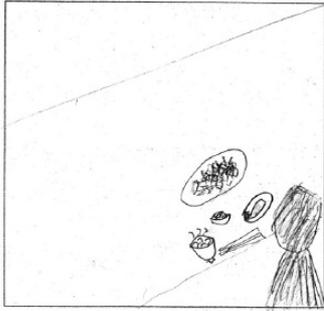


図8 6年D男

⑤人物包围型（家具などに囲まれている表現）

図9は児童だけの食事風景が、テレビや金魚の入った水槽で囲まれている。夕食は「楽しかった」と回答しているが、テレビや水槽を描くことで、絵がにぎやかになっており、この児童の深層には大人が食卓にいない寂しさを紛らわせている可能性があると思われる。

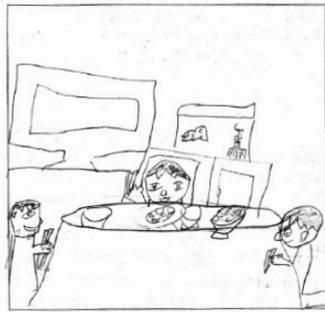


図9 1年E男

これは食卓の周りを家具や何かで囲まれている、絵が線で仕切られている絵である。「一人の食事状況は心細い、または母子のみの食事の雰囲気は淋しい、囲い込まれていることにより何とか不安を和らげることができる」<sup>10)</sup> 状態を示している。

⑥攻撃・脅迫型（枠からはみ出す人物表現）

図10は家族全員で食べた食事風景であるが、描かれている人物が3人も枠からはみ出している。この理由として、夕飯は「自分に合わせたごはんが用意されている」とあるように、家族それぞれが好きなものを食べていることの表れではないかと考えられる。家族がそれぞれ違うものを食べているため、食事はしっかりと描かれていない。

これは枠から人物がはみ出し描かれている絵である。「枠からはみ出す人物を描くということは家族や社会の枠、つまりきまりごとに従わされているという状況に対して無意識の反発感、攻撃心が投影される」<sup>11)</sup> 状態を示している。



図10 3年F男

⑦人物下線型（自分を強調する表現）

図11はアンケート調査では母と兄と一緒に食べており、みんな同じものを食べているにもかかわらず、絵には自分を大きく一人描いている。母と兄は吹き出しで書き加えられ、一緒に食べていない父も吹き出しで描かれている。自分の存在に注目を得たいという願望があるのではないかと考えられる。



図11 4年G子

これは誰かと食べているのに自分ひとりの絵しか描いていない、家族を描く中で自分だけ特別に強調して描いているなどの絵である。「周囲の注目を得たい、自分の発言や存在そのものに注意をはらってほしいという要求」<sup>12)</sup> を示している。

⑧コミュニケーション充実型（表現や動きがある表現）

図12には食卓に並ぶ料理が描かれており人物ひとりひとりの表情と動きもしっかりと描かれている。人物の表情は全員にこやかであり非常に楽しそうな雰囲気が伝わってくる。食卓の中央に置かれた大皿の料理をみんなで取り分けており、食事の家族間のコミュニケーションが取れていると推測することができる。

これは家族一人ひとりの表情や動き、食卓に並んだ食事がしっかりと描かれている絵である。「会話の内容が生き生きと伝わり、コミュニケーションが充実している」<sup>13)</sup> 状態を示している。



図12 6年H男

それぞれの分類の特徴的な絵として取り上げたものは、夕食の楽しさを「楽しくなかった」と答える児童が多く、コミュニケーション充実型以外に分類された絵には、その食卓での問題点が隠れている可能性が高いと考える。

(2) 学年別に見た夕食風景の描画の分類

児童の描いた夕食風景を学年別に見た結果を図13に示した。

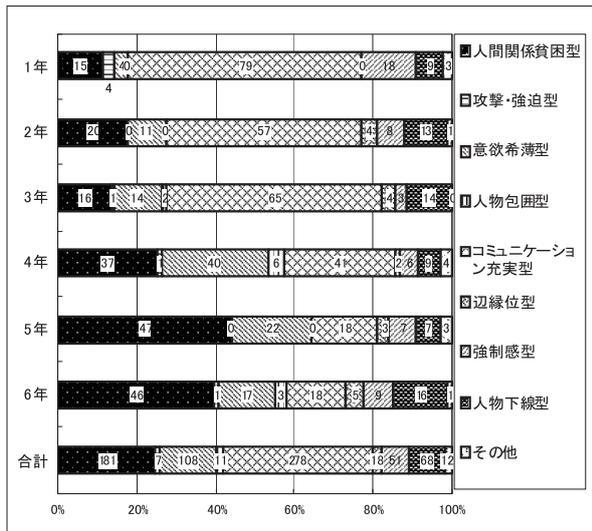


図13 学年別に見た夕食風景の分類

図13に示すように、全体を見るとコミュニケーション充実型が38%、人間関係貧困型25%、意欲希薄型15%、人物下線型9%、強制感型7%、辺縁位型2%、人物包囲型1%、攻撃・強迫型1%であった。これを学年別に見ると人間関係貧困型、意欲希薄型は高学年に多く見られ、コミュニケーション充実型は低学年に多く見られた。これは図1に示したように低学年のほうが家族全員で夕食を食べている児童が多く、高学年には少ないことが影響していると考えられる。一緒に食べた人数が少ないと会話も少なくなりコミュニケーションがとれないために、自分を含め一緒に食べた人の表情や腕を描くことができなかつたのではないかと考えられる。

強制感型は1年生に多く見られた。1年生には一緒に

に食べた人の絵まで描くことは難しかったのではないかと考えられるが、夕食を食べた雰囲気より食べたメニューのほうが特に印象強く残っていると考えられる。

(3) 男女別に見た場合

児童の描いた夕食風景を男女別に分類したものを図14に示した。

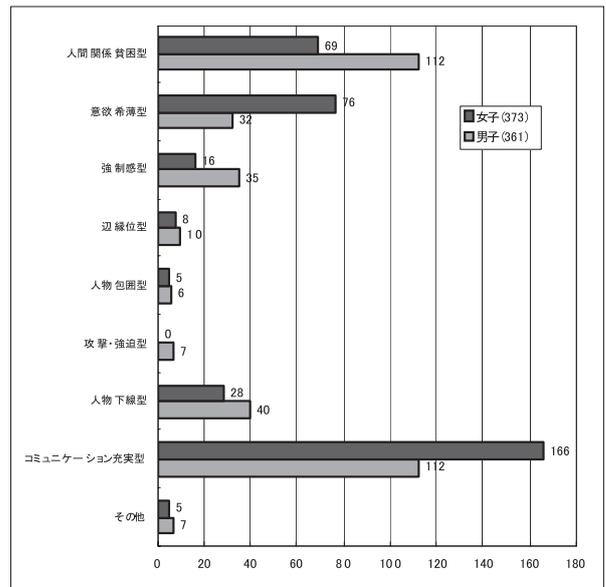


図14 男女別に見たKFDの分類

図14に示すように最も多かったコミュニケーション充実型は男子112人に比べ女子166人と女子に多く見られた。コミュニケーション充実型は食べたものや食べた人の表情がしっかり描かれているのが特徴で、女子のほうが夕食で家族と会話しているのではないかと考えられる。

次に人間関係貧困型の絵を描いた児童が多く、女子69人に比べ男子112人と男子に多く見られた。人間関係貧困型は一緒に食べた人の表情が同じであったり、顔の表情が描かれていないのが特徴である。男子には一緒に食べた人とのコミュニケーションがあまり重要視されていないのではないかと考えられる。

意欲希薄型は男子32人に比べ女子76人と女子に多く見られ男子に比べ2倍以上であった。女子には腕がしっかり描かれていないことから食べることよりも食べる環境を意識していると考えられる。

強制感型は女子16人に比べ男子35と男子に多く見られた。強制感型は食べた人より食べたものへの意識が強いと考えられるため、男子には人間関係貧困型と同じくコミュニケーションが不足しているのではないかと考えられる。

人物下線型は女子28人に比べ男子40人と男子に多く見られた。人物下線型は自分のみの強調が特徴なの

で、男子には夕食時において人との関わりよりも自分の存在を主張する傾向が見られると考えられる。

辺縁位型と人物包围型の絵を描いた児童は性差が見られなかった。

#### (4) 絵の分類と食の楽しさについて

児童の描いた夕食風景を8つに分けたものを「楽しかった」「ふつう」「楽しくなかった」の3つの食の楽しさ別に分類したところ図15が得られた。

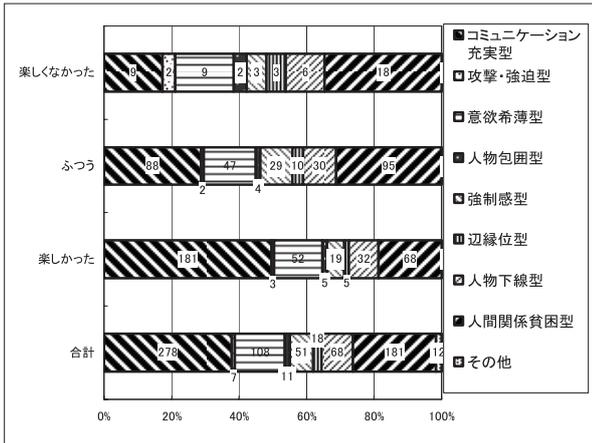


図15 絵の分類と食の楽しさについて

図15に示すように夕食が「楽しかった」とする児童の約半数がコミュニケーション充実型であった。「ふつう」「楽しくなかった」となるにつれてコミュニケーション充実型の占める割合が減っていった。しかし、コミュニケーション充実型に分類されていても夕食を「楽しくなかった」としているものがあることは注目する必要がある。

夕食が「ふつう」とした児童はコミュニケーション充実型と人間関係貧困型が同程度おり、ついで意識希薄が多かった。

その他の型については、分類される絵の枚数も少なく、どの楽しさでも割合は変わらず目立った特長は見られなかった。

今回調査を行った知立西小学校では学校を挙げて食育に取り組んでおり、コミュニケーション充実型に分類される絵が多いなど一定の成果をあげているが、夕食を「楽しくなかった」と回答する児童がまだいる。今後少しでも「たのしくなかった」とする子が減るよう、児童たちの食事への関心が高まるような食育とその方法を検討する必要がある。

食事をする意欲がない、食事中的会話がない、児童たちだけの食事バランスの偏った食事、寂しい気分がする食事など、児童の絵から読み取れる問題点を改善するためには、本当に児童たちが必要としている食の学びを学校全体で取り組み、さらには家庭をも巻き込む取り組みになるような食育の検討が必要である

のではないかと考える。

## IV. ま と め

本研究ではアンケート調査及び食事風景を描いてもらうことで、児童たちの食生活の内面にせまろうとした。その結果以下のことがわかった。

1、「夕食を誰と食べたか」についてみると、家族全員ではないが大人と共に食事をしている児童が最も多く、学年別では学年があがるにつれてひとりで食べたという回答した児童が増加した。

2、「夕食を家族みんなが同じものを食べたか」についてみると、同じものを夕食に食べたという回答した児童が最も多かった。

3、「夕食は楽しかったか」についてみると、夕食は「楽しかった」「ふつう」と回答した児童がほとんどであった。「楽しくなかった」と回答した理由として、コミュニケーションと夕食のメニューについて描かれたものが多かった。

4、夕食の楽しさと誰と食べたかについてみると、家族全員で食べることが、子どもの食の楽しさに大きな影響を及ぼすことが分かった。

5、児童の夕食風景描画を分析したところ、学年別に見ると食事中でのコミュニケーションが乏しい人間関係貧困型、食事をする意欲がない意欲希薄型が高学年に多く見られ、会話のある食事風景のコミュニケーション充実型は低学年に多く見られた。

男女別に見ると、食事中のコミュニケーションが乏しい人間関係貧困型、人物が描かれていない強制感型、食事をする意欲がない意欲希薄型、会話のある食事風景のコミュニケーション充実型に差が見られた。人間関係貧困型と強制感型は男子が多く、意欲希薄型とコミュニケーション充実型は女子が多かった。

6、絵の分類と食の楽しさについてみると、コミュニケーション充実型に分類されたものは夕食を「楽しかった」と回答しているものが多いが、コミュニケーション充実型に分類されても夕食を「楽しくなかった」とする児童がいた。

### 謝辞

本研究にあたり、調査にご協力くださいました知立西小学校の先生方ならびに児童の皆様に深く感謝いたします。

## 引用文献

- 1) 日本食育学会：「はじめよう！楽しい食育7 みんなの食育実践」、金の星社、2008年
- 2) 知立西小学校：「心身ともに健康で、自他を大切に育む子の育成～食からのチャレンジ～」、2007年

- 3) 室田洋子 他：NHKスペシャル「それでも『すきなもの  
だけ』食べさせますか」, NHK出版, 2007年
- 4) 日比谷泰：「動的家族描画法」, ナカニシヤ出版1986年
- 5) 岩村暢子：「変わる家族 変わる食卓」, 勁草書房, 2003年
- 6) 3)と同じ p 161
- 7) 同上 p 167
- 8) 同上 p 169
- 9) 同上 p 171
- 10) 同上 p 174
- 11) 同上 p 176
- 12) 同上 p 177
- 13) 同上 p 179

### 参考文献

足立巳幸：NHKスペシャル「知っていますか 子どもたちの食卓」, NHK出版社2000年

藤原智美：「なぜ, その子供は腕のない絵を描いたか」, 祥伝社, 2005年

(2008年9月17日受理)